

令和8年度看護栄養学部看護学科入学者選抜試験
【総合型選抜】

レポート試験問題

(試験時間 120 分)

注 意 事 項

- ① 開始合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ② 受験番号、氏名を問題冊子、解答用紙、メモ用紙の所定の欄に記入してください。
- ③ 開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、直ちに申し出てください。
- ④ すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
なお、原稿用紙1マスに1字（数字を含む）とし、横書きで記入してください。
- ⑤ 試験時間中の退室はできません。
- ⑥ 問題冊子、解答用紙、メモ用紙は、試験終了後回収します。

受 験 番 号	氏 名

問題

別紙 1・2 の課題文等を踏まえ自らテーマを設定し、設定したテーマに沿ってあなたの考えを 800 字以内で述べなさい。

別紙 1 課題文等

看護・介護の重労働業務を、ロボットで置換することに問題はないのか？

看護・介護の現場における人間とロボット

1991年に公開された『老人Z』（監督・北久保弘之）というアニメ映画がある。あらすじを簡単に説明すると次のような話だ。

時は近未来。少子高齢化が進んだ日本では、高齢者の数は増加の一途をたどり、その高齢者を介護する人員は慢性的に不足していた。そこで厚生省（当時）は高齢者福祉改善のため、介護ロボット「Z-001号」を開発する。Z-001号は寝たきり高齢者の福利向上をめざして開発された多機能介護ベッドであり、介護士の手をわずらわせることなく自動で被介護者の入浴・食事・排泄・娯楽などの役割をこなし、健康状態をモニタリングすることで非常事態には医療機関への連絡まで行う優れものだ。そして、その実験的導入の被験者として、とある認知症気味の寝たきりの高齢男性が選ばれる。

しかし、この高齢男性の訪問介護ボランティアを行っていた看護学生の主人公は、無人で行われる「ロボット介護」に納得できず、政府によるZ-001号の発表記者会見に赴き、「人間の愛情みたいなものが感じられない」「（高齢男性が）なんだか可哀想」と必死に訴えるのである。

もちろんこのストーリーはSFであり、物語は二転三転して予想外の結末を迎えるが、問題はストーリーではない。映画公開から25年を経た今、そこで描かれた「ロボット介護」への不安は、SFのテーマとしてではなく、現実の問題として生じているのだ。

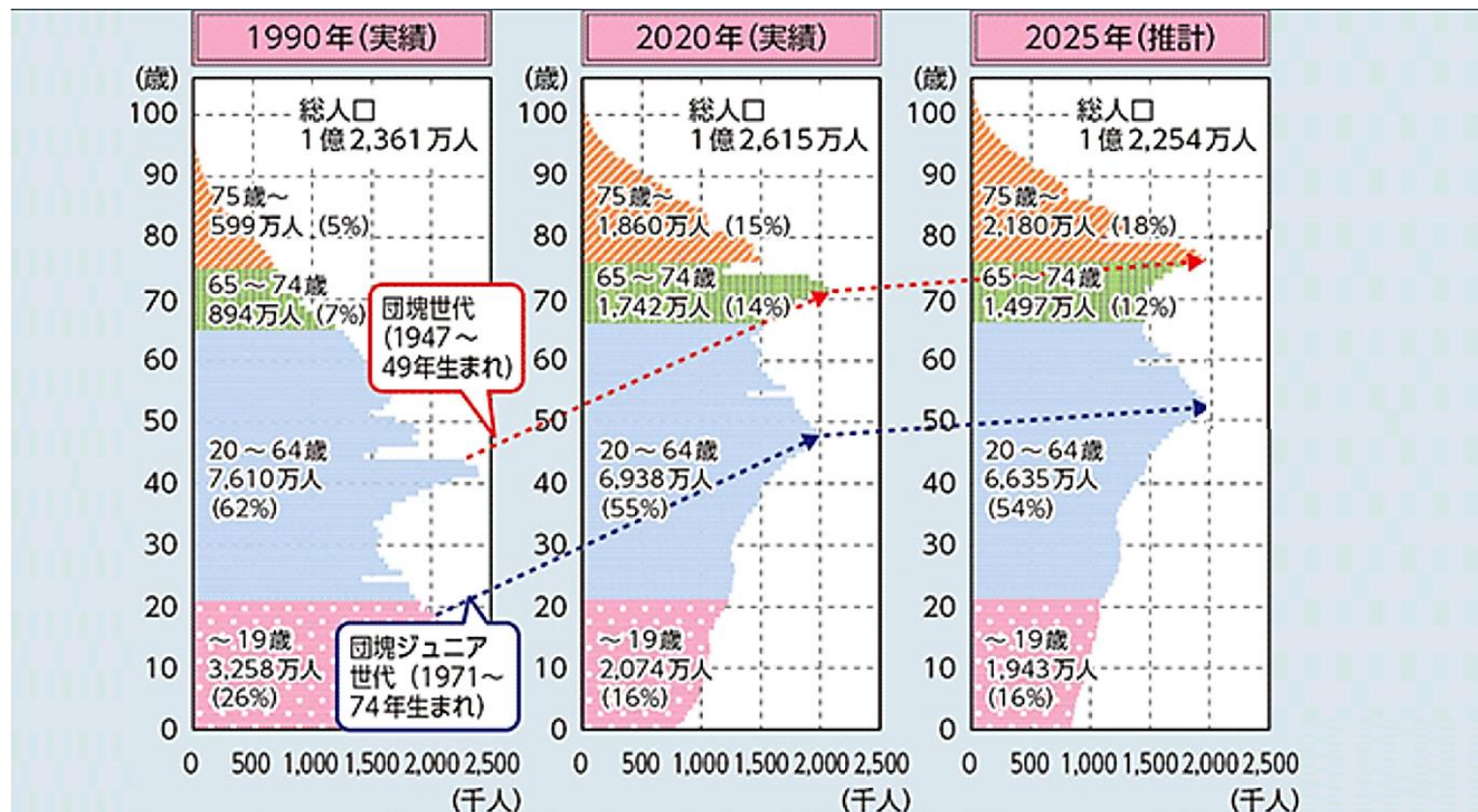
映画とまったく同じ「高齢者人口の増加と介護士の不足」という問題を解決するため、現実でも介護の現場にロボット技術を導入しようとする動きが活発になっている。

例えば2015年に、経済産業省が主催したロボット革命実現会議は、その成果として「ロボット新戦略」を発表した。そこでは、「ロボット介護機器を活用することにより介護従事者がやりがいを持ってサービス提供できる職場環境を実現するとともに、介護は人の手により提供されるといった基本概念を維持しつつロボット介護機器の活用による業務の効率化・省人力化へとパラダイムシフトを支援^{*1}」することが、今後のロボット技術展開戦略の重要な柱とされている。

とりわけ、高齢者の移乗や移動の支援、排泄支援、入浴支援、認知症患者の見守りなどの分野では、すでにロボット技術の導入が始まっており、現実映画に追いつき、追いこそうとしている。

*1 経済産業省：ロボット新戦略. 2015

別紙 2 課題文等



わが国の人口ピラミッドの変化

(令和4年版 厚生労働白書－社会保障を支える人材の確保－)

資料：実績値（1990年、2020年）は総務省統計局「国勢調査」、推計値（2025年）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）により厚生労働省政策統括官付政策統括室において作成されたものを一部改変した。

出典：厚生労働省（2022）令和4年度版厚生労働白書（令和3年度厚生労働行政年次報告）－社会保障を支える人材の確保一，pp160，（最終アクセス：令和7年9月29日）<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/21/dl/zentai.pdf>。